



全米最古&MBA ランキング全米 No. 1! (Financial Times 2010年 MBA ランキング)

「ウォートン・スクール (正式名称: The Wharton School of the University of Pennsylvania) 在校生・卒業生による学校説明会のお知らせ」

この度は、8月7日(土) 午後開催予定のウォートン・スクール (以下 Wharton) の非公式説明会についてご案内させていただきます。

本説明会は、秋に開催予定の Wharton のアドミッションによる正式なイベントとは趣を異にし、直近の卒業生・在校生が中心となって実際の学校生活の様子や生活環境、卒業後に改めて感じる Wharton の魅力等を皆様にお伝えします。

将来のグローバル・リーダーを育てる目的のもと、バランス良く組み立てられているアカデミックプログラム、世界トップレベルの学生たちとケーススタディや課題を通じたチームワーク形成、学校の運営や各種イベント等豊富な課外活動、生活の場となるフィラデルフィアでの魅力的な生活環境、そして受験のアドバイス等についてざっくばらんに情報発信することを目的としています。MBA 留学を検討されている方、Wharton にご興味のある方に加えてご家族/パートナーも含めた多くの方にご参加いただけますと幸いです。

【日時・場所】

日時: 8月7日(土) 午後2時開始(13時30分開場)

第1部: 学校全般の説明セッション

第2部: 在校生・卒業生によるパネルディスカッション

第3部: 個別 Q&A 及び名刺交換会

※第1部～第3部合計で2時間程度となる見込みです

場所: 丸の内Mプラス 1F 会議室サクセス (千代田区丸の内 2-5-2 三菱ビル)

<http://www.marunouchi-hc.jp/emplus/access/index.html>

【参加申込】

参加をご希望の方は、[こちら](#)からお申込みください。座席に限りがある為、先着順での受付とさせていただきます。予めご了承ください。

## 【説明内容（予定）】

- 学校生活全般：授業・課外活動紹介、フィラデルフィアの魅力、就職活動の状況等
- 日本人から見たウォートン：日本人学生の活躍状況、留学生サポート等
- 家族の視点：パートナーのフィリーライフ、出産・子育て、家族アクティビティ等

「〇〇について知りたい!」といったご希望がありましたら、是非参加申込みの際にご連絡ください。様々なバックグラウンドの方のニーズにお応えできるよう、皆さんの興味分野を事前に把握して当日の説明会に反映させたいと考えております。

それでは、多くの方にお会いできることを在校生・卒業生一同楽しみにしております。

## 【問合せ先】

説明会に関する質問に関しては以下のメールアドレスにご連絡ください。

[whartonjapanclub-session10@googlegroups.com](mailto:whartonjapanclub-session10@googlegroups.com)

受験及びキャンパスビジット等に関する問合せは以下のメールアドレスにご連絡下さい。

[outreach2011@googlegroups.com](mailto:outreach2011@googlegroups.com)

## 【関連ウェブサイト】

学校の詳細については以下のウェブをご参照ください。

<http://www.wharton-japan.net/>

(日本人向け非公式サイト)

<http://www.wharton.upenn.edu/mba/>

(学校公式サイト)

Wharton Japan Club アウトリーチ担当

## 【補足資料】 Wharton について

Wharton は全米で最初に設立されたビジネススクールであると同時に、直近の Financial Times の MBA ランキングで全米 No. 1 に輝くなど世界トップレベルのビジネススクールで、ファイナンス、マーケティング、マネジメント等超有名教授をそろえ、実用的なプログラムを提供しています。

全米で 5 番目に大きい都市フィラデルフィアに位置し、現在 Undergraduate (学部) に約 2,500 人、MBA と呼ばれる Graduate (大学院) に約 1,600 人の学生が在籍しています。Alumni は約 84,000 人に上り、教員数はビジネススクールで最大の約 270 人を有しています。1,000 人をこえる日本人卒業生のネットワークもまた、ウォートンの魅力の一つであり、現在は約 40 名の日本人学生が在籍しています。

## 【勉強】

Wharton の 1 年目は、必修 (コア) 科目を通し、会計・統計・マネジメント・マーケティング・ファイナンス・オペレーション・倫理・リーガル等、今後のリーダーに必要な基礎をしっかりと身につけることができます。選択 (Elective) 科目も大変充実しており、2 年生以降は集中と選択のスタンスで自分の卒業後のキャリアを鑑みて、本当に興味のある科目のみを履修することができます。面白いところでは、競争戦略論、アントレプレナーシップ、ソーシャル・インパクト (社会貢献活動) 等が挙げられます。

MBA に期待する学びの一つにリーダーシップを挙げる方も多いかと思いますが、1 年目の間は確立されたプログラム (Learning Team 制度、Leadership Ventures という過酷なキャンプ/アドベンチャー、MGMT652 Foundations of Leadership という理論と実践を組み合わせた革新的な教育方法で行われるコア科目) でみっちり各人のリーダーシップ・スタイルについて考える機会が与えられます。もちろん、クラブ等の課題活動においてもリーダーシップを発揮したり、模索したりとリスクフリーな環境で大いに実践を通して学ぶことによって、自然とリーダーとして成長ができる環境が整っています。

## 【課題活動】

Wharton の魅力の一つ挙げると、一学年約 850 人という大規模校ならではのダイバーシティ (年齢・性別・国籍・出身業界等) があります。十人十色とは良く言ったもので、世界中から本当に多種多様なバックグラウンドの優秀な生徒が揃っていることによって、たくさんの素敵な出会いがあります。

Wharton は世界トップレベルの教授陣や施設という箱および世界中から集まった優秀な

生徒たちを提供するだけで、あとは自分次第でいくらでも好きに何でも企画・運営して良い、といった学校のスタンスどおり、自立したマチュアな生徒が多いのも確かです。「どうせ MBA 留学するなら、なるべく多くの仲間とたくさんのかんことを経験したい」、そんな人には贅沢な環境です。

現在校生も、それぞれ就職活動・スポーツ・芸術等様々な分野でリーダーシップ・ポジションを経験しています。

### 【就職活動】

また、就職活動も私費留学生にとって MBA に求める最も重要な要素のひとつだと思われますが、Career Service が大変充実しており、担当のキャリア・カウンセラーが親身に相談に乗り、アドバイスを提供してくれます。「Wharton は金融ばっかり」というイメージを持たれがちですが実際にはコンサルティング・事業会社・国際機関・非営利団体とあらゆる業界に対して強力なコネクションを持っています。また日本における就職活動についても過去の成功体験やノウハウが蓄積されているため、ボストン・キャリアフォーラム対策や会社説明会等の情報を適宜共有し、皆で協力して結果を出しています。

### 【フィラデルフィアでの生活】

東京にはもう戻りたくない、そんな言葉が学生の間から聞かれます。

フィラデルフィアは、ニューヨークまで電車で1時間、DCまで2時間。(少し足を伸ばしたければカリブ海の島々まで3時間) 東海岸各都市へのアクセスについては実は非常に利便性の高い場所にあります。

Wharton 生のほとんどが Rittenhouse Square を中心とする Center City という地区に在住していますが、全てが徒歩圏内にあり、緑豊かな素敵なエリアです。

意外に知られていないのが、その食文化のレベルの高さと音楽・芸術関連の設備の充実度ではないでしょうか。州法の関係上 BYOB (Bring your own bottle) のお店が多く、その分どこもそれなりに美味しい食事を良心的な価格が楽しめます。また、フィラデルフィア・オーケストラ、バーンズ・コレクションに代表されるコンサートや美術館に簡単に立ち寄れるのもフィラデルフィアの魅力の1つと言えます。